

No.672 (改題632号)
2025年
9月10日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所：新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三蔵工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫県本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

戦争も核兵器もない世界を 27回を数えたピースフェスタ明石



広島県被団協理事長の佐久間邦彦さんが「日本被団協のノーベル平和賞受賞と核兵器廃絶の願い」と題した講演を行った＝8月24日、明石市(写真は実行委員会提供)

メインの講演会に210人

2005年から始まり今年で第21回を数えた「ピースフェスタ明石」平和・いのち・子ども。今年は8月16日から24日までの9日間、アスピア明石北館(ウィズあかし)を会場に開かれ、期間中、メイン行事の講演会をはじめ、戦争体験談の集い、各種のギャラリー展示などさまざまな企画が催された。最終日の子午線ホールでの講演会は広島県被団協理事長の佐久間邦彦さんを招いた講演で210人が参加した。

メイン行事の講演会は、

サクセス演奏のオープニングで始まり、広島県被団協理事長の佐久間邦彦さんが、「日本被団協のノーベル平和賞受賞と核兵器廃絶の願い」と題した講演を映像での報告も交えながら行った。

佐久間さんはまず、被団協の一員としてノーベル平和賞受賞のためにオスロを訪問したときの行動を映像で紹介。ノルウェーの国会議員との会談や核廃絶を訴えるパレード、授賞式での田中照巳

被団協代表のスピーチのことなどを報告し、「ノーベル賞受賞はうれしい一面、責任の重さを感じる」と思いを述べた。さらに、「受任論」に抗して、原爆被害者だけでなく戦争の被害者と一緒に、戦争を始め遂行した国家の責任としての補償を求める運動を皆さんと共に進めていきたいと訴えた。

佐久間さんは生後9か月で爆心地から3kmの自宅で母親と共に直接被爆、母親に背負われての避難中、黒い雨にも打たれ、10歳と11歳の時に腎臓と肝臓を患った体験を持つ。そんな立場から、被爆の実相をあらためて伝えるとともに、平和で戦争も核兵器もない世界を、と訴えた。

フェスタでは、23日には「戦争体験談の集い」戦後80年…市民による戦争体験談」が開かれ、矢野蓉子さんの明石空襲を体験したお話や、中国残留女性2世の安江静子さんの、日中戦争で残留難民となって苦労した母親のお話を聞いた。集いには高校生平和大使の参加もあり、「高校生が平和について伝えたいこと」の発言もあった。



5歳の時に明石空襲を経験した人や中国残留難民として苦労した母のことを語った人のお話を聞いた＝8月23日、明石市

高校生平和大使招き

垂水平和のつどい

憲法を生かす会・垂水が主催

このほか、期間中はウオールギャラリーで「日本被団協の歩みと展望」や高校生が描いた原爆の絵が展示され、23、24日の両日は、「戦後80年」と昔、平和を考えるギャラリー展」で、戦時下の暮らしの品々や明石空襲の記録、「標榜の島・オキ」展示も行われた。

憲法を生かす会・垂水(中島秀男代表)は被爆80年の8月30日、垂水区内で「なくそう核兵器」高校生が平和への思いを語る」と掲げた集いを開いた。40人を超える参加者が、若い力と勇気に応えて「平和のために世代を超えてつながってほしい」と誓い合った。

集いでは、垂水区在住で入市被爆した故古石忠臣さんが語る原爆紙芝居DVDを上映、古石さん本人が体験した被爆者の悲惨な現実から原爆投下を告発した。古石さんは、被爆体験の継承と核兵器廃絶に尽力してきた被団協の役員だった。

つづいて神戸龍谷高校3年生の松尾仁菜さんが、「私が高校生平和大使と



高校生平和大使の4人から活動報告を聞いた＝8月30日、神戸市垂水区

して見えた景色」と題して報告。「大量の核兵器があるから活動を始めた」と語り、被爆体験などを「聞く」「知る」という受け身の活動から国会での行動、署名活動、仲間との交流など能動的な活動について説明し、「平和とは当たり前ではなく、向き合い続けることが大切だ」と強調した。さらに舞子高校2年生の宮田七海さんら3人の高校生平和大使が核兵器と平和について報告後は、高校生平和大使を囲んで3つのグループで参加者が戦争や核兵器に対する体験や思いをもとに討論した。平和教育のあり方なども議論された。高校生平和大使の活動から大人が勇気づけられた集いとなった。

会場の壁面には原爆パネルの数々も展示された(菊地憲之)

水脈

暑い。「命の危険に繋がる暑さ」はいつまで続くのか。最高気温更新が相次ぎ、ついに兵庫県丹波市で全国最高気温41.2度を記録した。それも6日後には群馬県伊勢崎市で41.8度と、さらに更新だ▼

体感温度はもっと高い。ベランダに置いた温度計はあっさり48度を記録したし、アスファルトが焼けている舗道やエアコンから吹き出される熱風などで息苦しい▼国連は気候変動に伴う深刻な熱ストレスから労働者を守るための指針を盛り込んだ報告書を公表し、政府や雇用者に対し、持病のある人や中高年など体力の低下した人に配慮しながら、地域や職種ごとに対策を立てるよう求めた。酷暑から労働者を守ることは健康面のみならず、経済的にも必要だという。日本は労働安全衛生法の改正により、熱中症対策が6月から罰則付きで義務化されたが、きちんと守られているだろうか▼異常気象による自然災害リスクは急増し、熱波や豪雨、洪水、干ばつ、山火事などの災害は、過去50年間で5倍に増加したという。世界各地の、異常気象が引き起こす食の安全と供給の不安定さは、経済弱者を飢えに直面させる。異常気象の常態化は人々の間に、さらに国家間に分断を呼びこむ。平和と人権の課題なのだ。

「神戸・南京をむすぶ会」の第24次訪中団に参加して

門永秀次(新社会党垂水支部委員長)

コロナ・パンデミックを挟んで6年ぶりの南京フィールドワークの再開だった。「神戸・南京をむすぶ会」(中国では「神戸南京心連心会」)で通っている)の第24次訪中団である。団は、10歳台の高校生から70歳台後半まで全20人で、8月13日から18日まで。今回は南京城内とその近郊でのみのフィールドワークだった。

今年、もうひとつ今まではと比べて際立っていたのが、「台湾有事」などを口実とする日本の軍拡などがもたらす日中間の緊張の高まりを強く感じさせられたことである。ガイドからは、街を歩くととき余り大きな声、日本語での話は控えるように注意され、「侵襲日軍南京大屠殺追悼同胞紀念館」(以下、「紀念館」)では、われわれの団はすでに20回を優に超える訪問にもかかわらず、館内参観など他の中国人参観者と一緒にならないように配慮されたり、また、フィールドワークも公安の警備付きだったらしい。

6年ぶりの南京の街の様子は大きく変わり、考えてみると、会が毎年夏に南京に通い始めて30年近くになる。日本のわれわれも高度成長期を挟む社会の激しい変わり様を経験してきた世代だが、この間の中国社会の変容のすさまじさには驚きを禁じ得ない。買い物もス



中華門から雨花台を望む(雨花台に攻撃陣を敷いた日本軍は37年12月13日に南京城を陥落させる)

8・15南京大屠殺追悼集会に参加

さて今回のフィールドワークもいつものように8月15日、「紀念館」が主催する平和祈念の南京大屠殺追悼集会への参加と前述の屠殺現場などを訪ね、あらためて88年前

(1937年)南京で起こった日本軍による事件の歴史を心に刻んで犠牲者を追悼し、その歴史をくり返さないことを誓うことがテーマだった。

ただ今回の追悼集会は、「紀念館」の方針だったのか、いつもは韓国や台湾などいくつかの国からの代表団と一緒に追悼集会だったのが、今年は日本のみだった。今年、日本は本物のわれわれの団だけでの集会であったのは少し残念であった。追悼集会では宮内陽子団長が追悼の言葉を述べ、団員のうち最年少の2人が犠牲者を悼む献花を行った。

「幸存者」2世からの証言の聞き取り

集会後は、これも恒例の「幸存者」(中国では、過去の惨案を経験し現在も生き延びている人たちを指す言葉)の当時の証言を聞く。ただ日本と事情は同様だが、南京大屠殺の事件を自らの経験として語ることができる世代は徐々に舞台から退場



南京大屠殺の犠牲者を慰霊する燕子机慰霊碑の前で説明を聞くフィールドワーク参加者

していく。今回はその2世、曹玉莉(ツァオ・イリー)さんに、日本軍が南京都市に迫るなか商売の都合で南京を離れる訳にはいかなかった父方の叔父2人をはじめ母方の親戚6人が日本軍に殺された様子を、幸いにして生き残った父母たちから伝えられた証言を聞いた。母親は1937年の出来事を経験してからずっと警報のサイレン音や「日本人」という言葉を聞く度に身体を震わせていたという。

他、屠殺「紀念碑」も訪問
今回フィールドワークで回った屠殺の「紀念碑」の建つ場所は、燕子磯江灘、草鞋峡、煤炭港、中山埠頭、挹江門、ラube邸旧址、利濟巷慰安所陳列館、南京師範大学(旧金陵女子大学)などであり、いずれも「紀念碑」には1937年当時の日本軍による暴虐の事実、その犠牲者(避難同胞)の数などが刻まれており、

9・25に神戸学生青年センターで報告会
なお、訪中団の報告会は9月25日午後6時から阪急六甲の神戸学生青年センターで行われる。それに先立ち、午後4時から南京をテーマにした映画を見る会も行われる予定だ。

8・14日本軍「慰安婦」メモリアルデー企画 被害者の姿を撮り続けて

池田恵理子さんが講演

「慰安婦」問題を考える会・神戸」が主催する今年の「8・14日本軍「慰安婦」メモリアルデー企画」として、8月24日、「被害者の姿を撮り続けて」と題した講演会が、1991年から96年にわたって8本の日本軍「慰安婦」問題の番組を放送した元NHKディレクターの池田恵理子さんを招いて神戸市立婦人会館で開かれた。

「8・14日本軍「慰安婦」メモリアルデー」は、1991年8月14日に金97年からは映像集団・ビデオ塾を立ちあげ、「慰安婦」被害者や元日本人兵士の証言も作品化。「女

学順(キムハクスン)さんが「私が生き証人、無かったことにはさせない」と告発したことから始まったもので、主催の「慰安婦」問題を考える会・神戸」は、ソウルの日本大使館前での「水曜行動」に連帯して始まり、毎月第3水曜日に神戸市内でアピール行動を続けている。

また、池田さんは1997年からは映像集団・ビデオ塾を立ちあげ、「慰安婦」被害者や元日本人兵士の証言も作品化。「女

また、池田さんは1997年からは映像集団・ビデオ塾を立ちあげ、「慰安婦」被害者や元日本人兵士の証言も作品化。「女

被団協の地区代表が訴え

有事法制に反対するネットワーク東播磨



被団協の加古川地区代表の林勝美さんが自分の被爆体験やノーベル平和賞受賞でオスロに行ったことなどを話した=8月24日、加古川市

記念講演では、ノーベル平和賞を受賞した日本被団協の加古川地区代表の林勝美さん(83歳)のお話を聞いた。林さんは小・中学校などで被爆体験の語り部活動を行いながら、被団協の役員としても核廃絶運動に関わっている。

林さんは3歳の時、爆心地から南へ800mほどの所に住んでいたが、被爆1週間前に広島市天満町(爆心地から西へ1.3km)の伯母の家に移り住んでいた。同じ家の2階で洗濯物を干していた14歳の姉は、衝撃波で家が倒壊し、瓦礫に挟

まれ焼死。自分は3歳で記憶がないが、夢では真っ黒い中に閉じ込められている自分をよく見ると語った。その時、ガラスの破片を踏んでいたのも気が付かず、小学5年生の時に貧血を起したときに足裏にガラスの破片が見つかり摘出してもらったが、大きな後遺症はなかったとのこと。

また、池田さんは1997年からは映像集団・ビデオ塾を立ちあげ、「慰安婦」被害者や元日本人兵士の証言も作品化。「女



元NHKディレクターの池田恵理子さんが映像を交えながら「慰安婦」問題などについて講演した=8月24日、神戸市中央区

インフォメーション①
2025-12社会主義ゼミナール近畿「21世紀の国家論 帝国主義論」
◎9月20日(土) 13時30分〜16時◎大阪市・国労大阪会館(JR大阪環状線・天満駅から徒歩約3分)◎講師 隅田聡一郎さん(大阪経済大学経済学部専任講師)◎参加費 666

賞でオセロに行き、現地の国会議員との対談や交流・研修会で核戦争の現実化の防止を訴えてきたとの報告もあった。林さんは「武力は使用せず話し合いで解決を。国際交流を進め、スポーツ、芸術、文化などで交流し相手を理解することが大事。今後は地球人としての行動に努めたい」と締めた。(藤井)

西脇で今夏も平和のつどい

部落解放多可・西脇共闘会議が主催

部落解放多可・西脇共闘会議が主催する「2025多可・西脇 平和の集い」が8月26日、西脇市立隣保館上野会館で開かれ、自治労兵庫県本部の荒西正和さんが「平和運動が果たしてきた役割」というテーマで、平和友好祭運動で学んできたことなどを問題提起した。

荒西さんはまず、平和運動を取り組む意義について、①国益のために命や人権を犠牲にしない、②戦争への道を進まないための枠組み(制度・政策)の実現、③戦争への道を進ませないための行動が大切だ、と訴えた。反核平和の火リレーの取り組みでは、自治体に

非核自治体宣言の採択を要請してきたが、2017年12月の県議会での採択をきっかけに広がり、2024年3月に佐用町が採択して県下の全自治体で採択となったと報告し、この宣言をどう生かしていくかが今後の課題であるとも提起した。宝塚市では「核兵器廃絶平和推進基本条例」が制定されており、戦後70年に「市民による戦争体験記録集」が発刊されていると、平和事業推進の具体例も紹介された。



自治労兵庫県本部の荒西正和さんが平和友好祭運動の経験や成果を踏まえて問題提起を行った＝8月26日、西脇市

街宣や学習交流の強化を確認 憲法あしやの会が総会と学習会

「憲法あしやの会」(上原康夫代表)の2025年総会が8月23日、芦屋市内で開催され、月1回の街頭宣伝行動や学習交流会の開催、季刊『憲法あしや』の発行など、これまで以上に取り組みを強めていくことが強調された。

(戸田)

また、芦屋地労協を軸として、5団体共闘の一員として取り組んでいる「10・21国際反戦デー」や「5・1反戦メーデー」などの活動の強化も確認された。

「記録する会」の取り組みについて報告があり、空襲犠牲者合同慰霊祭の開催や「平和の碑」に空襲犠牲者の名前を刻む活動などが紹介された。神戸市全体の空襲による犠牲者は7423人とされているが(県発行の『復興誌』「平和の碑」への刻銘数はその半分にも達していないことが報告された。「記録することが大切。戦争が終わって80年経つ

とすると、今秋の取り組みとして、11月15日に対馬丸事件を題材にした「満天の星」の上映会が予定されており、市民へのアピール行動を強めていくことになった。



総会後の学習交流会では神戸空襲を記録する会の小城智子事務局長の講演を聴いた＝8月23日、芦屋市

が、次世代に繋いでいくため、犠牲者名簿の収集があった。(鍋島)

インフォメーション②

■違法だらけの斎藤元彦知事 即刻辞任してください 県庁2号館ヒューマンチェン第4波

◎9月18日(木) 12時～13時◎県庁2号館南側歩道に集合◎主催◎兵庫県知事選挙を振り返る市民の会090・4288・2121

■被爆80年「原爆と人間写真展」◎10月3日(金)～7日◎10時～19時◎ベルストすずらん広場(神戸電鉄・鈴蘭台駅ビル3階)◎入場無料

※10月5日(日) 14時から同所でギャラリートークがあります(核兵器廃絶と平和な世界を求めて活動している高校生平和大使がその活動を報告します)

地域ユニオン あちこちあれこれ

今年1月、ある外国人労働者から相談があった。相談者は70代男性。機械部品メーカーのオペレー

ターで、30年以上を日本で過ごし日常生活に困らない程度の日本語を話すことのできる人だった。相談内容は、雇用契約が2月20日に満了することから雇止めを心配するものだった。面談後、会社経営者に対し電話で相談内容を伝え21日以降の雇用継続について確認できたため、問題は解決したかと思われた。

外国人労働者の雇止めの相談に対処

あった。改めて経営者に連絡し、会社都合のため休業手当を支給すること求め、了とする旨の回答を得たので相談者に伝えた。

3度目の電話連絡を受けた。2度目の面談を行った。見せてもらった雇用契約書には、時給が1400円から1060円に

下がられており、5月20日契約満了後の更新が無条件の記載があったため、説明を求めるべく交渉を申し入れた。

第1回交渉で示されたの姿勢は変わらず、業績

第2回交渉でも会社側の姿勢は変わらず、業績

第3回交渉の前に会社側から、①当該組合員は7月20日を以って退職する、②雇用問題の解決金として会社は〇〇〇円を支払う等々内容とする合意書(案)が示され、私たちは通訳を介

が悪いという雇用の継続はできないとし、退職に依るのであれば解決金を支払う、との考えが示された。

して組合員に内容を理解してもらえよう努めた。雇用の継続を希望していた彼であったが、雇用継続が難しいことを理解し、最終的に合意に至った。交渉を終えるにあたり、本人が離職票並びに在職期間証明書の発行を求め、会社が了解したため、合意書を取り交わすこととした。

- 9月の価格は、9月18日頃お知らせ。
- 配達予定は9月27日(土)です。



(有)ぴいふる
電話/ファックス 078(531)0135



新米価格についてのご報告とお願い

かねてよりご案内してきましたように、2025年産米の価格は、昨年実績より2倍、またはそれ以上の値上がりになっています。備蓄米の放出により、24年産米の価格は、夏になって値上がり幅が小さくなりましたが、それでも店頭価格は5㌔5000円近い状態が続いています。

8月末から25年産新米が入荷されるようになりました。ご承知のように、今夏も異常な高温と水不足です。期待するような豊作にはならない背景もあって、公表され始めたJAの農家への仮払金(最低補償額)は、前年の倍近くになっています。そこに様々な経費や税金などが上乗せされ、店頭価格が決まります。また、生産人口が激減し、耕作放棄する農家が各地に増える中、主食の米を生産する農家を守ることは当然です。生産者の所得補償と、消費者が主食の米を安価に安定して購入できるように、国の農政の整備が急がれます。

以上、諸事情からぴいふるのお届けする米価は8月は5㌔4500円とさせていただきますが、現在も仕入れ価格の高騰が続いているため、今後の価格も変動があり得ますことを、どうかご了承いただきますようお願い致します。なお、ぴいふるの米は、すべて丹波篠山産コシヒカリ、売値は消費税込みの価格表示です。

おんなの目

戦後80年。7月の参議院選挙を受けて戦中に生まれた国会議員は6人になった。そうす。田中角栄元総理が「戦争を知っている世代が政治の中核にいるうちには心配ない。平和について議論する必要もない。だが、戦争を知らない世代がこの国の中核になったときが危ない」と言いました。今まさにその通りになっています。7月の参議院選挙では「南京虐殺はなかった」「核武装が安上がり」などと発言する議員まで現れるありさま。歴史に学ばず、捏造する言動に恐怖を覚えます。防衛予算要求額は来年度、過去最大の8・8兆円。台湾や尖閣諸島を巡る情勢を背景に、政府は「抑止力を強化する」と南西諸島にミサイル部隊を中心に自衛隊を増強。弾薬庫を九州から北海道、近畿など13カ所に増設。日本各地で日米共同軍事訓練も行われ、政府は戦争への準備を着々と進めています。軍事力を高めれば平和な暮らしが保障されますか？

日本国憲法前文には「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し」とあります。私達にも国が戦争に突き進まないようにする責任があります。眺めているだけでは何も変わりません。そんな中、ちょっと元気をもらった出来事。8月6日の広島平和記念式典での湯浅知事のスピーチ。「抑止とは、あくまで頭の中で構成された概念または心理、つまりフィクションであり、万有引力の法則のような普遍的物理的真理ではない」「自信過剰な指導者の出現、突出したエゴ、高揚した民衆の圧力。あるいは誤解や錯誤により抑止は破られてきました」「抑

この夏に感じた“光”

私達にはあります」「被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら、平和を創り上げていきます」と、堂々と宣言。その姿に希望を感じました。ハロキティちゃんて有名なサンリオの創業者辻信太郎さんの言葉も心に響きました。17歳で空襲を体験。「みんなが小さな物でも贈り物をするこ

私も参加している「憲法を生かす須磨区の会」。「名古屋法アクション」など様々な取り組みをしています。先日カンパのお願いをしました。物価高の折、無理なお願いかたと危惧していましたが、嬉しいことに連日カンパの振り込みが続いています。私達のささやかな活動でも期待して応援してくださる人がいる。ここにも光を感じます。あきらめずがんばりましょう。

（佐野みさ子）

………

《お詫びと訂正》前号のこの欄の見出しの表記に校正ミスがありました。正しくは「山川菊栄」です。ミスを恥じつつ、お詫びして訂正します。【編集部】

『崩壊する日本の公教育』

鈴木大裕著／集英社新書／1100円(税込)

本の帯に、「アメリカの新自由主義教育『改革』は日本の30年先を行っている。その失敗から学ぶことで、日本でも加速度的に進んでいる公教育の崩壊を客観的に、俯瞰的に見る事ができる」とある。アメリカの教育の現状とそれをなぞって進む日本の教育を見直す指針を与えてくれる1冊だ。

まず、アメリカの公教育の現状が紹介される。アメリカでは固定資産税が教育予算のベ

本棚

満天の星

今年は敗戦から80年の年。米軍が「ありったけの地獄を集めた」と形容した沖縄戦。日米両軍で20万人が犠牲になり、うち沖縄県民の死者は軍民あわせて15万人に及ぶと推定される。

沖縄の悲劇はすでに前年の1944年8月22日に始まっていた。それは学童疎開船「対馬丸」への米軍潜水艦の魚雷攻撃による撃沈事件だった。

犠牲者は判明しているだけでも1484人にのぼり、そのうち学童を含む0歳〜15歳は約3分の2の1040人であった。

この事件は、生存者に対する政府による厳しい箱口（かんこう）令のため、永らく語られることなく、闇に葬られた。対馬丸事件の全容は今なお不明である。

数少ない生存者である中島高男は、当時、対馬丸の甲板員として働き、沈没後は6枚の筏をつなぎ7人の救助にあたる。3日間の漂流の末に7人全員無事に救助された。中島高男がそんな自身の経験の語り部活動を始め

加速度的に進行する公教育の崩壊

り当てられる。親が少しでも良い学校に通わせたいと思うと同様に、学校も少しでもよい生徒を取りたいと手のかりそうなお子どもは排除の対象となっていく。100万円近い保護者会費を支払う裕福な地区の学校と貧困家庭の子が集まる学校、公立学校の格差はますます。貧困地域では利益を重視する公設民営学校「チャータースクール」が乱立、

市場化されたなかでファーストフード店のように、学力困難校に指定された公立学校が次々置き換えられていくという。これらの学校では、テスト至上主義、テスト対応を中心にしたカリキュラムを厳しい学習規律でこなし、型にはまらない子は振り落とされていく。

こうしたアメリカの教育「改革」の流れは2002年の「落ちこぼれ防止法」からだ。州ごとに違っていた教育体制を全国で実施する学力標準テストによって管理し、連邦予算をその成績で振り分ける。テストの成績で子どもを評価し、教員も学校も教育行政もそれで評価していく競争が生まれ、教育を市場化していくことにつながっていった。

この流れはすっぽり日本にも当てはまる。

2007年に全国学力テストを導入。反対が強かった学校ごとの成績開示を強行して「全国で、全市で〇位」「最下位脱出」などテストの点に翻弄される体制は、通年のドリル学習、事前対策などの形で、テスト導入後20年間に定着してしまっている。

競争原理に委ね、教育を市場化していく流れ、原質は変わらず奪い合いをさせていく新自由主義教育の流れを押しとどめていく視点をこの著書の中からぜひつかみ取っていき

(丸山裕子)



シネマランド

学童疎開船「対馬丸」事件の真相を追う



るには30数年の歳月を要した。そして、2008年に出版した『満天の星』対馬丸真実の証言に

協力した。さらに、対馬丸記念館（那覇市）の設

立にも尽力した。

本作は2人の監督が作

品化に取り組んだ。葦澤恒と寿大聡で、ともに無名塾時代の知己で、2021年に再会を果たす。

俳優も兼ねている寿大聡の祖父が先述の中島高男にあたる。祖父の没後、ロシアのウクライナ侵攻が始まった直後、祖父の旧友からの電話で「君はウクライナ侵攻をどう考えているのか?」と亡くなった高男さんのために、今こそ対馬丸の物語を形にすべきだ!と叱責され、映画化に立ち上がる。寿大が取材交渉し、葦澤がロケ地選定にあたり、2人で資金集めに奔走する。克蘭クインは対馬丸が眠る鹿児島県鹿児島市沖合となる。2020年8月だった。ちなみに悪名島は最近、群発地震発

84分

機となる。ウクライナ現地ではミサイル攻撃のアラートが鳴り響く中で戦地の恐怖を身をもって体験することになった。

戦争・空襲・原爆の体験者の高齢化が進み、もう数年もすると実体験の継承は困難を極める。無謀な戦争につき進んだ社会と組織のあり方を検証し、顧みることが次の世代に突きつけられた課題となる。

（大坪）

監督 葦澤恒、寿大聡
2024年/日本ノ

